



2017年度 天文資料

平成29年度 第5号 (8月号)

平成29年 7月30日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<8月8日未明に部分月食、12日～13日はペルセウス座流星群が極大>

8月8日は満月ですが、未明に満月の一部が欠ける部分月食が起こります。今回は、食分が0.25と満月の4分の1が欠ける程度ですが、久しぶりの月食ですし、満月が欠けていく様子が肉眼でもよくわかります。ただ、月食の時刻が、**2時22分から明け方の4時18分まで**と、ほとんどの人が就寝中の時間帯のため、観察するは少し大変ですが、夏休みの期間でもありますので、早起きして観察してみてもはどうでしょうか。

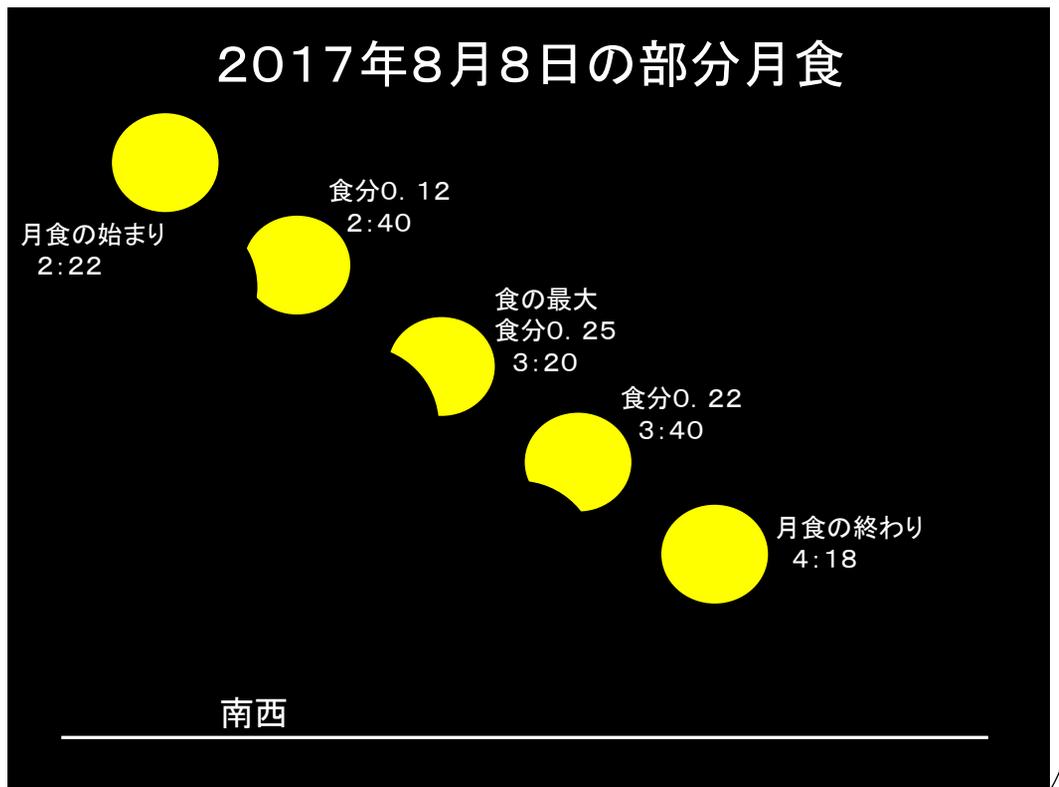


部分月食

<8月8日未明に満月の一部が欠ける部分月食が起こる>

今回の部分月食の概要をお知らせします。月食の始まる2時22分は、7日の真夜中過ぎですので、お間違えのないようお願いいたします。右下の図に、月食の進行状況を示しています。

真夜中過ぎの2時22分、西に傾いた満月の左下の部分に地球の本影が当たり、満月が欠け始めます。その後、2時40分には満月の約1割が欠けます。そして、月食の始まりから約1時間20分後の**3時40分に食の最大**を迎えます。この時の食分が**0.25**、左下の4分の1が欠けた満月が見られるでしょう。その後満月は回復し、**3時40分には食分0.22**、そして月食の始まりから約2時間後の**4時18分に月食が終わり**、もとの満月に戻ります。



観察がしにくい時間帯ですが、久しぶりの月食、写真撮影にも挑戦してみましょう。

<12日～13日はペルセウス座流星群が極大>

1月のしぶんぎ座流星群、12月のふたご座流星群と並んで**三大流星群**に数えられるペルセウス座流星群は、**明るい流星や火球**※1が多く、**流星痕**※2が残ることもたびたびあり、人気の高い流星群です。今年は、**13日の4時ごろが極大**と予想されていますので、12日の夜から13日の明け方にかけてが見ごろとなりそうです。12日は、21時過ぎに下弦前の明るい月が昇ってきて、それ以降は月明かりの下での観測となりますが、**明るい流星や火球を期待して、月明かりを気にせず観測**してみましょう。



ペルセウス座流星群の流星 (提供：国立天文台)

※1：-3～-4等級よりも明るい流星のこと。火玉ともいう。

※2：流星が通った後に残る物質のこと。明るい流星が通った後などに見られる。流星が通った後も、残存物質が発光しているが、がて上層大気にかき消され、見えなくなる。